

【パナソニック杯チーム紹介】山形、打たせて取る！

2014年4月10日6時0分 スポーツ報知



大会出場を喜んだ山形ボーイズナイン



山形・後藤監督(左端)と主力の3年生(右から武田、菊池、澁谷主将)

◆報知新聞社主催 パナソニックカップ 第17回日本少年野球関東ボーイズリーグ大会(6日～5月4日・西武ドームほか)

東北支部の中学生の部が活気づいている。年々加盟数が増え、現在は23チームが所属。6日に開幕し13日から本格化する大会で、関東甲信の強豪に挑戦するボーイズ、岩手ボーイズ、山形ボーイズ、福島ボーイズを紹介する。

5年間、選手数名で練習だけの活動が続いていた山形ボーイズが復活した。部員は14人(3年3人、2年8人、1年3人)。部員増の理由について後藤義則監督(48)は「地元硬式チームの小学生が入ってくれるようになった。ウチで硬式を経験して高校へ進んだ庄司瑞(国学院大)の活躍が大きかったのでは」と、巨人・奥村らとともに日大山形を昨夏の甲子園4強に導いた右腕の名前を挙げた。

チームのモットーが「感謝の気持ち・基本を大切に」だけあって、選手は礼儀正しい。1番・三壘の澁谷紘瀬は、「主将として声出し、あいさつを進んでやるようにしています」と背筋をピンと伸ばした。巨人・杉内にあこがれる左腕・菊池優吾は「カーブ、スライダーを勝負球に打たせて取ります」と、登板を楽しみにしている。

“再デビュー戦”のメセナ杯春季東北支部大会は、東北王者・いわきに0―5で敗れたが、澁谷主将は「負けたけど公式戦のグラウンドに立ててよかった」と前向き。この大会でさらに経験を積んで、夏の全国大会予選へつなげるつもりだ。